

## 令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	皮膚における多様な免疫応答の誘導機序と他臓器との免疫学的連関の解明
研究代表者	<p>椋島 健治 (京都大学・大学院医学研究科・教授)</p> <p>※令和 2 (2020)年 9 月末現在</p>
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
<p>科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見</p>	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>外敵侵襲に対する皮膚免疫応答機構の解明は、アトピー性皮膚炎をはじめとする様々な炎症性皮膚疾患の病態理解に重要である。研究代表者は皮膚病変の発症に伴い皮膚内にリンパ節様の組織構造が形成されることを見いだしており、iSALT(inducible skin-associated lymphoid tissue)と命名している。本研究では、その役割を明らかにする研究に取り組む。また、iSALT を介する腸管の免疫寛容誘導機構の解明にも取り組み、皮膚を物理的・化学的な侵襲から身体を守るための単なるバリアーとしてではなく、重要な免疫器官と位置付け、その役割を明らかにすることとしている。</p> <hr/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>皮膚を免疫応答の「場」と捉え、新たな概念として iSALT を提唱し、様々な皮膚疾患における免疫学的役割を明らかにすることは近年増加傾向にある炎症性皮膚疾患の病態理解に新たな視点をもたらすものである。また、マウスをモデル動物として用い、最新のテクノロジーを駆使して得られる基礎的な研究成果をヒト皮膚免疫関連疾患の理解へと発展させることは、これらの疾患に対する新たな診断方法や治療法の開発にもつながることが期待される。すなわち、本研究は iSALT をその切り口として皮膚における免疫応答の全貌解明を目指しており、臨床応用を視野に入れた革新的基礎研究である。</p>